

# 札幌白石区 姉妹孤独死を考える 2・26 緊急シンポジウム

生活困窮の中での孤独死、行政と地域に問われているものは…

白石区内のマンションで1月20日、遺体で発見された姉妹の死が全国で波紋を呼んでいる。姉が昨年12月下旬に脳内血腫で病死、残された妹は自力で生活できず、1月中旬までに餓死同然で凍死。

発見時、姉の遺体はフリースの上にジャンパーを着るなど、ライフラインを止められ暖房機器が使えず、室内と思えないほど厚着をしていた。妹の遺体は極度にやせ細り胃の中は空っぽ。福祉の支援を受けず生活が困窮した末の孤独死だった。行政や地域も窮状を救えなかった。

「事件の原因は、行政の対応は…」 「地域の結びつきは」 「今後必要なことは」 — 姉妹の悲劇を繰り返さないために、今後の運動やたたかひに向けてみんなで考えていきましょう。



姉妹はなぜ…  
救いの手は…

## シンポジスト

佐藤宏和（北海道生活と健康を守る会事務局長）

伊藤りち子（日本共産党札幌市議会議員）

梁川敏彦（元保護課ケースワーカー）

## 憲法第25条

すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

国は、すべての生活部面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

**日時：2月26日（日）10:00～12:00**

**会場：菊水ビル4階大会議室（勤医協札幌病院裏）**

連絡先：勤医協老人保健施設 柏ヶ丘（担当：今）

TEL：865-0010